

2007年02月19日(月)・第107回目訪問●毎週連続訪問47週目

今日は、朝7時半に起床して、8時10分過ぎに山梨県を中央線により八王子駅まで移動し、その後京王線で聖蹟桜ヶ丘駅へ移動した。

聖蹟桜ヶ丘駅へは9時24分に到着し、そこから徒歩で桜ヶ丘団地へ向かった。本日は、天候も良いので、自然と団地へと徒歩で向かった。

聖蹟桜ヶ丘駅



→駅前 (ネギま!含む)



→コンビニ



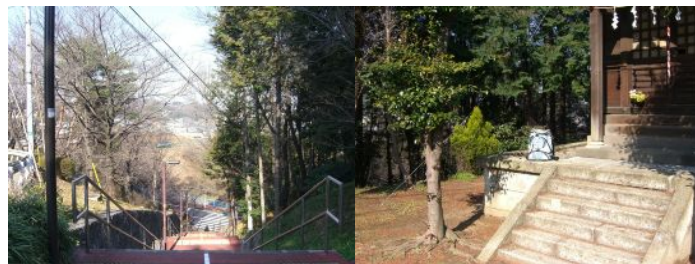
→郵便局（私的用事）→橋



→いろは坂（Fate 含む）



→耳すま階段→耳すま神社



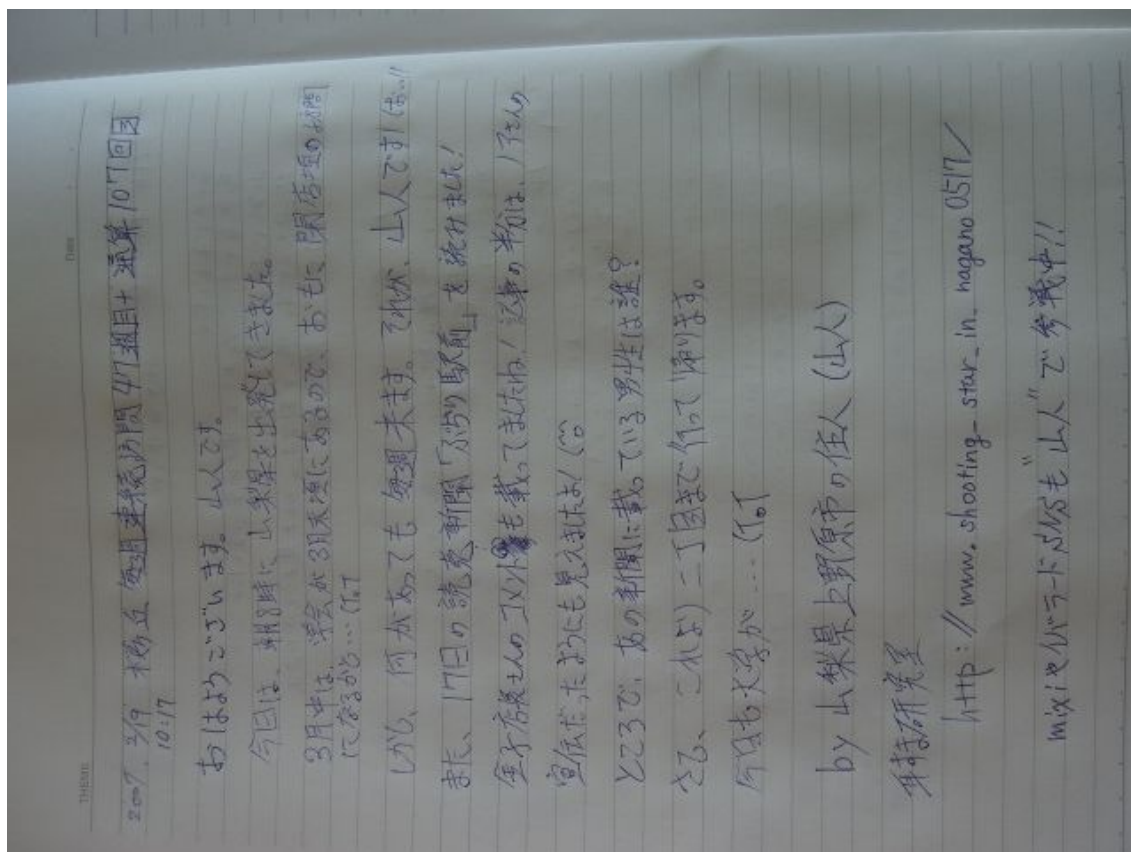
→はにはに・美蓮坂→耳すま銀杏並木

→耳すまロータリーと移動した。



10時11分に洋菓子店ノアさんへ来店した。すると、金子店長さんが調理場から出てきた。金子店長さんの話だと、「今日は女将さんがお出かけしていて、お店を一人で運営している。」との事だった。

よって、耳すま思い出ノートを記入し、



焼きたての食パンを購入して、早々にノアさんを後にした。

そして、桜ヶ丘二丁目のPS2ソフト「Fate/stay night」通学路設定地を訪問して、



桜ヶ丘二丁目バス停から京王バスで、聖蹟桜ヶ丘駅（10時40分）まで戻り、山梨県への帰宅路に着いた。

今回の桜ヶ丘訪問は、コメントらしいものが一切ありません。簡単に言えば、何もなかっただけです。(ハアハアハア・・・)

また、今週は2月23日(金)に八王子へ行く用事があるので、その時にでも再度行く予定であります。

ぶらり駅前
京王線・聖蹟桜ヶ丘駅
(多摩市)

「耳すま」の風景そのまま

「耳すま」は、中学3年の女の初の初恋を描いた物語。ジブリ作品には珍しく、現実の風景が再演されているところも特徴を呼んだ。

森田さん、桜ヶ丘商店会連合会長の松本富雄さん(53)

メモ 「耳すま」は、モデル一文を歩く、駅かロータリーまで往復1時間半程度。「いそはら」の母、主人公の親友から伝言される金比羅神社、「あかあか」のノア洋菓(042-243-0000)。

の案内で、「いそはら」を上る。主人公の父が勤める図書館に続くように、向原も登場する場所だ。昔にならぬ、この辺りはすまざくらで本道に変わりに多々です。松本さんの前手を聞きながら、映画の登場人物が今にも飛び出してきそうな気がした。

少くもな坂道を歩けば、歩る。主人公の父が勤める図書館に続くように、向原も登場する場所だ。昔にならぬ、この辺りはすまざくらで本道に変わりに多々です。松本さんの前手を聞きながら、映画の登場人物が今にも飛び出してきそうな気がした。

「耳すま」は、モデル一文を歩く、駅かロータリーまで往復1時間半程度。「いそはら」の母、主人公の親友から伝言される金比羅神社、「あかあか」のノア洋菓(042-243-0000)。

「耳すま」は、モデル一文を歩く、駅かロータリーまで往復1時間半程度。「いそはら」の母、主人公の親友から伝言される金比羅神社、「あかあか」のノア洋菓(042-243-0000)。

2007年02月17日(土) 読売新聞記事「ぶらり駅前」